

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： むらさき苑かまど わの家

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372101105		
法人名	社会福祉法人 西根会		
事業所名	むらさき苑かまど わの家		
所在地	〒028-7112 岩手県八幡平市田頭第24地割36		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和3年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・定期的に訪問診療を受け、ちょっとした体調の変化や症状を主治医に相談できることで利用者、職員共に健康状態において安心して生活することができる。年1回定期健診も受けている。</p> <p>・職員の年代が20～60歳代と幅広く、男性職員も2名いる。様々な意見や考えを聞き、取り入れることができる。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内には同一法人の特別養護老人ホームや小規模多機能居ホーム、デイサービスなどの関連施設がある。事業所相互の機能を活かしながら、各種事業や研修会の共同開催など、協力、支援を行うなかで、より充実した介護サービスの提供に努め、利用者の安心と家族の信頼を得ている。運営にあたっては、法人の経営理念とグループホームの理念を柱に、毎年度事業計画、主要事業を定め、職員会議などを通じて職員間で共有し、利用者職員が家族的な共同生活を目指した、利用者本位の介護サービスを提供している。また、運営推進会議や職員からの意見・提案、家族等の要望に沿って、業務の改善、施設整備、職員のスキルアップに向けた支援を具体化しながら、より良い介護サービスを提供している。コロナ禍にあっても、地域行事への参加や認知症カフェの再開、保育園児や小学校児童、ボランティアの受け入れなど、地域との交流再開に向けた検討を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎朝の申し送り時に理念を唱和している。唱和することで日々確認、共有し、意識して業務にあたることができている。実践につながるよう努力はしている。 ・理念は玄関、多目的室、職員室に掲示してある。	グループホームの理念のもと、事業計画と方針を策定し、3か月毎の計画と目標を決めて、ケアを実践している。さらに職員会議の話し合いの中で、この1か月を振り返りながら、次の月に反映させている。玄関、職員室、多目的室に理念を掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。今年度の法人や主要事業を定め、職員会議などを通じて共有し、3か月ごとに見直しを行い、より良い介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・昨春、コロナ禍となってからは行えていない。 ・例年地域のお祭りの山車やさんさ踊りの会が来所しふれあっているが、今年度は屋内から見物するだけだった。	コロナ禍のため、今まで交流のあったボランティアや小学生の慰問、中学校の体験学習などの受け入れが出来ない状況にある。コミュニティセンターの展示会には、利用者と職員が作成した作品のみの参加とした。区長や民生委員から地域の情報をいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・昨春、コロナ禍となってからは交流は難しい。 ・昨秋は地域のコミュニティセンター祭りに作品の展示のみの参加だったが、見た方から感想を頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・昨春、コロナ禍となってからは機会を持つことが少ない。 ・発信する場を設けられていない。 ・運営推進会議も開催できていないが、開催予定月には資料を作成し送付している。	コロナ禍で会議は書面での開催となっている。委員は地域の様々な役割を担っている方々で、施設からは所長、管理者と職員も交代で参加している。今後は、資料に併せて、意見や要望を記載する用紙を送付する方向で検討している。	運営推進会議の委員からの意見、提案とその検討状況や実施内容を次回の会議で報告、記録し、介護サービスの改善等に活かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・介護認定調査への協力。 ・入所判定会議(市職員等参加)時に事業所や申込者の現状を報告し、助言等を頂いている。頂いた意見は職員で共有している。 ・運営推進会議のメンバーにも市職員がおり、運営推進会議資料を送付している。	市の行政情報は、文書、メール等で入手できているほか、要介護認定申請の際には、関連する事項の指導も得ている。また防災関連の緊急情報は、防災用通信端末を通じ把握している。法人が地域包括支援センターの西根ランチを担っていることもあり、市との相互協力の下で、事業所では、認知症カフェの開催について検討しているところである。	

令和 3 年度

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に委員会を開催し、身体拘束につながる可能性のある事例などを検討している。 職員会議時に研修を行い、具体的な身体拘束の例を示したり、職員のメンタル面のフォローになるような提案を行っている。 夜間は防犯のため玄関は施錠しているが、センサーを使用し、見守りで対応できるように努めている。 	法人の3ヵ月ごとの身体拘束に関する専門部会に参加するほか、毎月事業所の委員会を開催し日々の業務に反映させている。施設長は、職員に振り返りをしながら基本に戻る事を勧め、また職員の資質向上のため年一回職員アンケートを実施し、問題点を探り対応している。玄関の施錠は防犯のため、夜間のみとしている。離床確認のセンサーを一部活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に委員会を開催し、虐待はないか、虐待につながるような要因はないか話し合っている。 情報を共有し虐待を招くことがないように努めている。 事業所内研修の年間予定を立て、虐待についても研修予定はあるが、忘れて頃にやって来るのではなく、回数を増やし意識づけが大切かも。 言葉遣いなど身近なところから気をつけていく。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護や後見制度について学ぶ機会が無く、今後の課題だと思っている。 本人や家族を支援できるようにしていきたい。 預かり金の管理や家族の様子から困っていることがないか気を付けている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 重要事項説明書に沿って説明している。質問を受け付け、納得いただけるように対応している。 改定時には説明後、重要事項説明書にサインを頂いている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族の意見は機会あるごとに伺っている。意見は職員間で共有しているが、外部に表せる機会は特に設けていない。今後は必要に応じて運営推進会議等でお知らせしていきたい。 家族には電話や通信で近況報告し意見も伺っているが、意見が少なく反映できているかは疑問。 	家族へのアンケートを実施し、家族の意見や要望等を把握しているほか、来所の際に聴き取り、アレルギー対策の食事や衣類の提供、お手伝い、趣味などの要望に対応している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議や毎日の申し送りだけでなく、日常の会話の中でも意見の提案ができる。 ・職員会議では質問や意見の交換ができていますが、改めてしまい言いにくいこともある。	連絡ノートでの記載や職員との個人面談により、提案や要望等を受け、コロナ禍での検査機器の導入や施設内での夏祭りの実施、資格取得への支援など、業務の改善と職員のスキルアップに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・業務の見直しなどで残業をすることはほとんどなくなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・コロナ禍で外部の研修への参加や法人内研修を開催することが難しい。 ・法人としてリモート環境を整備中。 ・職員会議時に事業所内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・昨春からコロナ禍となり、行えていない。 ・法人としてリモート環境を整備中。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・コミュニケーションを図るための時間を十分に取 り、良い関係を築くことができるように努めている。 ・本人の話に耳を傾け、個々に対応する支援を心掛けている。 ・入所前の面談や情報収集で関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(1年以上新たな入所者はいないが) ・家族が理解できるよう丁寧な説明を心がけている。 ・入所できたことで安心し、家族が説明を覚えていないこともある。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人と家族の要望をよく聞き、できるだけ要望には応えられるようにしている。 ・必要に応じて受診の支援や、重度化に備えた相談にも応じている。 ・居宅CMにも在宅時の様子や本人と家族の関係性や状況の確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・遠慮なくどんな話もできる関係を築いていけるよう努めている。利用者が自分でできることはやっていただいている。利用者のできることを見つけ、楽しみや役割を持つことで利用者同士が支え合い、役に立っていると思える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・介護保険の更新申請などご家族としての役割をお願いしている。 ・コロナ禍で病院受診や定期検診はGHで対応しているが、必要に応じて医師の説明に同席してもらっている。 ・毎月の通信などで様子を伝えているが、面会でできていた時のようなきめ細やかな交流は現在は難しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ禍で面会中止となっているが、希望時にはガラス越しでの面会や、電話での会話支援を行っている。 ・手紙を書くことができる方には手紙を勧めている。 ・自宅方面やなじみの街並みを通るドライブをしている。	友人、知人の来訪が難しい実情にあるが、来所する家族との窓越しの面会、お菓子などの差し入れに対応している。天気の良い日は、出身地や自宅の周辺をドライブし、思い出を大切にしている。関係継続のため、電話や手紙も勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係を把握しテーブル席の変更や、関わり合いがスムーズにいくような配慮をしている。職員が間に入り関わり合いを支援することもある。 ・活動時は席を工夫し皆で参加できるようにしている。 ・利用者同士が助け合ったり気づかい合っている様子が見られる。		

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の施設への入所時には情報提供し、面会に行くこともある。行事等であった時には声掛けをしている。 ・相談があれば応じている。 ・必要により手続等の支援をしている。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の中から意向をくみ取るよう努めている。 ・本人や家族からの聞き取りにより意向の把握に努めているが、本人からの聞き取りが難しい時には普段の様子や特別な反応などの情報を職員間で共有し、対応を検討している。 	<p>普段の生活の中での会話を大切にして、家族の意向も聴き取り、意向の把握に努めている。会話の難しい人は、表情や仕草で汲み取り、それを職員間で共有して支援している。家族から「本人の出来る事はやらせてほしい。」との声があり、利用者の希望に沿って食事の後かたづけ、モップ掛け、ゴミだし、畑作業、水遣りなどの手伝いを行なっている。利用者は、趣味の御詠歌、民謡、健康体操なども楽しんでる。</p>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族、CMからの情報を活用しているが、入院して初めて介護申請しキーパーソンの家族も入院までは疎遠だったというようなケースもある時代、本人からの聞き取りもできない時は新しい関係を結ぶしかない。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者について気が付いたことは随時情報共有し、現状の把握に努めている。日誌、記録、申し送りや口頭での伝達で把握に努めている。 ・職員会議時、個々の現状や見直し事項について話し合っている。 		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成担当者や居室担当だけでなく職員全員で意見を出し合っている。個々に合わせた計画を立てられている。 ・6か月ごとに介護計画の見直しを行い、会議の場で話し合っている。家族にも意見の確認をしている。 ・本人や家族にも意見を求めているが意見を得ることが難しい。 	<p>計画作成担当者や居室担当者だけでなく、全職員が関わり、職員会議後に開催しているサービス担当者会議の中で意見を出し合い、評価とチェックは連絡ノートで確認しながら、一人一人に合わせた計画を作成している。医師の指示も反映させているほか、家族の意見等を確認し、6か月ごとに内容を見直し、緊急の場合は、随時変更している。</p>	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録、日誌、連絡ノートで確認し、情報を共有している。 ・生活の様子は個別に記録し、対応についての変更や気づきがある時には申し送りや連絡ノートを活用して情報を共有し見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・毎月モニタリングを行い具体的な状況の把握し対応できるようにしている。 ・職員会議で個々の状況確認を行い対応の変更の必要性など話し合い現状に合ったサービスの提供に努めている。 ・本人や家族の意向にはできるだけ沿うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ禍となり外部との関わりを持つことができない。慰問やボランティアの受け入れもできない。 ・訪問理容、法人内での衣料販売などを利用し、散髪や買い物をしている。どちらも利用者は楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・希望する方は承諾を頂いたうえで1回/月訪問診療を受けている。 ・必要に応じて他の診療科目を受診する時には主治医からの紹介状を持参し、連携できるようにしている。 ・家族と協力し、体調不良時や定期健診の受診支援をしている。	入居時に利用者や家族の同意を得て、協力医療機関による月1回の訪問診療を受診に変更している。精神科などは、協力医療機関のかかりつけ医の紹介状を得て受診している。受診や生活の状況を毎月家族に報告している。コロナ禍のワクチン接種は、協力医療機関で実施した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・事業所内に看護職はいないが、法人内の看護師に対応方法や受診の必要性などについて相談している。		

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時には医療機関に本人の情報を提供し治療や入院生活を受けやすいように支援している。 ・入院中は病院や家族と随時連絡を取り合い情報共有している。職員間でも情報共有し退院後の対応に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時の説明で重度化や終末期に向けての意向を聞いている。 ・重度化に対応できる設備が不十分なことを説明し理解いただいている。 ・介護度が変わった時などに随時今後についての意向を個々に確認している。	入居時に、事業所では看取りを行わない旨を家族等に説明し、了承を得ている。また介護度が3以上になった場合には、今後について特養ホームへの移行や病院対応等、家族と話し合い、重度化の状況に応じ、法人の特養や他の医療機関等に移送している。法人が、外部講師を招いて看取りについて研修を実施しており、今後はそれに参加して勉強して行きたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルがありいつでも見られるようになっていないが意識して頻回に確認する機会は持っていない。 ・訓練も数年前に受けたきりになっているので、今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練は定期的に行っている。 ・法人の地域災害協力隊がある。運営推進会議で合同の避難訓練を行っていたが、コロナ禍となり2年行えていない。市の水害時避難訓練に参加予定だったが、中止となった。	年に2回、火災想定の実施し、その1回を夜間想定としている。また水害に対する訓練1回実施している。隣接する本部のむらさき苑には、自主防災組織が組織化され、地域の福祉避難所としても指定されている。災害が発生時には「地域防災協力隊」による協力が得られるようになっている。暖房機器や発電機は、福祉避難場所の特養の施設を活用することとしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・身体拘束の研修でスピーチロックや声のかけ方を学び活かしている。 ・特に入用や排泄時の声掛けやプライバシーの保持には気を付けている。	入浴、排泄等での異性介助は特に問題はない。利用者の個性を尊重し、御詠歌、民謡を楽しみ、前歴を活かしたお手伝いの要望に対応している。職員全員とも、利用者の部屋に入室する際にはノックをし、声を掛けてからとしている。入浴時やトイレ誘導時の声掛けには、十分気を配り、プライバシーの保持に努めている。広報紙への写真の掲載は、家族等の了承を得ている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の希望を聞く機会として毎月わの家会議を開催している。利用者中心の話し合いを行い会議で出た意見を尊重し、レク活動の内容や季節毎の目標などを決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・できるだけ一人一人のペースに合わせて過ごしていただけるようにしている。 ・おやつなど希望を聞いて提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・意思表示できる方には入浴後に着る服などを自分で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・毎食前にメニュー紹介をしている。 ・おしぼりたたみやテーブル拭きなどの食事準備、食器拭きなどの後片付けをやっていただいている。 ・箸置きを数種類用意し毎食時好きなものを選んで使っている。	主食のご飯、みそ汁は事業所で作り、副食は隣接する特養ホームの厨房で作り、提供している。おやつは利用者の好みに合わせ、職員と利用者が楽しみながら一緒に作ったりもしている。利用者はおしぼりたたみ、テーブル拭き、食器拭きの手伝いをしている。年越しにはお刺身や蕎麦の提供もあり、新年の餅つき、季節に合わせたみずき団子作りなど、食事が楽しみなものになるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・必要に応じて刻みやソフト食を提供している。 ・食事摂取量の確認を行っている。 ・水分を摂れない方には手作りでお茶やジュースの寒天ゼリーを用意し、水分摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、個々の状態に合わせて歯磨きの声掛けや介助を行っている。仕上げ磨きをすることもある。 ・義歯使用者は毎晩洗浄剤に浸け置きしている。 ・口腔にの状態について月末に評価している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の状況を記録することで排泄パターンを把握できるように努めている。・個々のパターンに合わせて排泄の声掛けや誘導を行っている。行動やしぐさを観察しタイミングを外さないように誘導している。 ・状態が変わった時は排泄方法について職員間で意見交換し、検討している。	個々の利用者の排泄状況を記録し、パターンを把握し、それに合わせて声掛けや誘導を行っている。自立者は4名であり、布パンツや紙パンツを状況に応じて使用している。汚れた場合は、お尻拭き、シャワーなどで清潔保持に努めている。夜間のポータブルトイレの利用はなく、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便状況の観察を行っている。状況によっては処方薬を使用する。体操、ごみ捨てを兼ねた散歩、外気浴等で体を動かす機会を作っている。 ・水分補給を兼ねた寒天ゼリーの提供も便秘予防に繋がっていると思う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・勤務時間の関係である程度スケジュールは決まっているが、体調や希望に合わせて調整している。 ・就寝前の足浴をする方もいる。	週2回の入浴とし、日曜を除く毎日の午後3時を目安に対応し、体調や希望に合わせて調整をしながら個々に合わせた入浴となっている。入浴剤のほか、季節には、ゆず湯等を提供している。入浴時は、職員との会話や歌、長湯などで楽しんでいる。機械浴が必要な場合には、特養の施設を活用することとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・就寝時間、消灯時間は決まっていない。個々に自宅での習慣やその日の体調に合わせて自由に休んでいただいている。 ・に中も自室で臥床したり、ソファで休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方された薬についてはその都度職員全員が説明書に目を通している。 ・薬変更時は状態観察し、次回受診に繋げる。 ・服薬チェック表を活用し誤薬や飲み忘れがないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の好みや力に合わせて家事仕事などの役割を持っていただいている。趣味活動においても個々の好みを重視している。 ・コロナ禍となり外出での気分転換は難しくなっている。 ・季節や年中行事、利用者の希望に合わせてながら行事の予定を立てている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅訪問や買い物、ドライブなど希望を聞きながら行っていたが、現在は感染症予防の為苑庭の散歩やどこにも寄らないドライブのみとなっている。 ・外気浴や散歩など支援している。 ・希望時は自宅にドライブに行くが現在は家族と会うことは原則できないことになっている。 	<p>コロナ禍で以前のように出身地の祭り見物や外出は出来ない状況にある。散歩がてら近所の桜を見たり、希望に添い自宅までドライブをする等、出来る範囲で外出支援をしている。中庭を利用したの屋台や花火、ゲームなどで、気分転換を図ったり、日頃は中庭のプランターの水やりや、苑の周りの散歩、畑や庭の草取り、ひなたぼっこでの外気浴が出来るよう支援に努めている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で人込みには出かけられない。 ・隣接の施設に年数回衣料品の展示販売が来るのでそこで洋服を自分で選んで買うことができる。 ・集団生活の中で常に自分でお金を管理するのは難しい状況なので職員が管理している。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書ける方には書いていただき投函の支援をしている。 ・希望持には支援している。こちらから勧めることもある。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・中庭で花を育てたり玄関前の花壇でトマトやサツマイモ、枝豆など育てている。収穫を楽しみにしている。 ・季節によって太陽光が当たりすぎることもあるが、レースのカーテンや席の移動などで調整している。 ・季節感のある壁面装飾を利用者と職員で毎月手作りしている。 ・毎日掃除や換気をして清潔を保っている。 	<p>ホールの天井は梁だけとなっていて、天窓で明かりも取られ、広い空間となっている。パネルヒーターとエアコン、加湿器で室温が調節され、廊下には2カ所の小上がりとソファ、テーブル、テレビが設置されている。中庭を囲むように居室があり、プランターの花を眺めたりして、利用者はそれぞれ思い思いの場所で時間を過ごしている。また職員と利用者が一緒に手作りした物を飾り、居心地よく過ごせるように工夫をしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・主にリビングの共有スペースで過ごすことが多いが、廊下の小上りスペースを利用する方もいて、自由に過ごしている。 ・ソファに座りくつろいでいる様子をよく見かける。 		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : むらさき苑かまど わの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時には思い入れのあるものを持参してもらっている。 ・自宅で使用していたタンスや布団を持参されている方もいる。 ・生活の中でのいろいろな表情の本人の写真や家族と一緒に撮った写真を飾っている。 	居室は、パネルヒーター、エアコンで温度等が管理され、ベッド、クローゼット(押入れ)、手洗いが設置されている。ふとん、衣装ケース、時計、孫の写真などが持ち込まれ、壁には、活動の写真、手作り作品などが貼付され、利用者の意向に沿った居心地の良い場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレや廊下には手すりがあり、安全に移動できるように配慮されている。 ・居室入口には表札がかけてあり、「自分の部屋」と確認できるようになっている。トイレの表示もわかりやすくなっている。 ・日めくりカレンダーを食堂に設置し日にちを意識して生活できるようになっている。 		